

接触の様相 Vol.3

政治の季節～列伝風に～

第43回定期演奏会は「接触の様相Vol.3」として、近現代史において特異な光輝を時代に放った民衆の中の英雄を、列伝風に並べました。彼ら情熱的な実践家の沸騰するエネルギーが作曲家の個性と結びつき、稀に見るリアリティをもった作品が生まれました。このコンサートの合間に多くの民衆の生の声が聞かれる事を願ってプログラミングしました。

佐藤紀雄

Ensemble NOMAD

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」（遊牧、漂流）の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されてきた。2002年度に行なった定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡」は、大きな反響をよび、サントリー音楽財団「第2回佐治敬三賞」を受賞した。

海外からの招待も多く、2000年オランダのガウデアムス音楽週間、2003年ベネズエラで行なわれた「フェスティバル・アテンポ」、2005年11月パリで行なわれた「フェスティバル・アテンポ」およびイギリスの「ハダースフィールド現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレリア音楽祭」、また、2008年10月にはソウルでの「パン・ムジーク・フェスティバル」などに出演。一昨年秋には、中国の北京首都師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院で中国人作品を中心としたプログラムの公演を行い、好評を博した。今年11月には2度目の韓国公演を開催。今後もオーストラリア、オランダ、フィンランドなどでの公演を予定している。

2008年の『武満徹作曲賞』の最終審査会で演奏を担当し、審査委員のスティヴ・ライヒ氏から“次はノマドと一緒に演奏会を開きたい”と絶賛されるなど、国内外の評価は非常に高く、今後の活動から目が離せないアンサンブルである。

CDは、近藤譲「梶子」(ALCD-47)、「空の眺め」(ALCD-57)、「オリент・オリエンテーション」(ALCD-67)、石田秀実「神聖な杜の湿り気を運ぶもの」(ALCD-60)、池辺晋一郎「炎の資格」(CMCD-28121)、福士則夫「花降る森」(CMCD-28128)が発売されている。

東京オペラシティ・リサイタルホール



東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティB1F
Tel: 03-5353-0788
京王新線「初台駅」東口下車徒歩3分



佐藤紀雄 (cond/gt)



木ノ脇道元 (fl)



菊地秀夫 (cl)



野口千代光 (vn)



花田和加子 (vn)



甲斐史子 (vn/va)



菊地知也 (vc)



佐藤洋嗣 (el-bs)



中川賢一 (pf)



宮本典子 (perc)

Guests



吉川真澄 (sop)



和田 礼 (nar)



江川良子 (sax)